

# 論 說

## 歐米交通状態の變遷



道路改良會々長  
法學博士

水野鍊太郎

道路の改良に就ては私共平生熱心にその必要を唱へ、或は講演に或は雜誌に所見を公にして居るので今日茲に事新しくそのことを述べるまでもないと思ふが、今回數箇月間歐米を漫遊したその間

に於て、交通に關して見聞した事柄を概略申述べて御參考に供したいと思ふ。

私は十數年前二回外遊したことがあるが戰後は今度初めてである。戰前と比較していろいろの方面に變化はあつたが特に目立つて外形上に變化を見たのは交通に關することである。或は道路といひ、或は港灣といひ、或は船舶といひ、或は自動車といひ、これ等の機關が十數年前に見聞した時と比較すれば非常な發展をなして居るといふことを觀たのである。就中最も著しいのは陸上の交通機關として自動車の發達したことである。前に參つた時にも自動車は勿論あつたのであるが、近年その數の多くなつたこと、その利用する者の殖えたといふことは實に著しい變化であつた。この事は外國へ行つた人は誰も感ずること、事新しく申す必要もないと思ふが、自分は特に目立つてそれを感じたのである。

今日陸上の交通機關としては汽車、飛行機、その他車馬がある。汽車は固より交通機關の主要部分であるが、同時に最も著しい發達をしたのは自動車と飛行機である。飛行機も今日は立派に交通運輸の用に供せられて居て、定期に往復をして居る次第であるから、交通機關の一部分になつたのであるが、併しながらこれは未だ十分なる利用をなすまでには至つて居らない。今日はどうしても自動車の時代と申して宜しいのである。亞米利加では人口三人に就て一臺の自動車があるとか、イヤ五人に就て一臺であるとかいろいろ、その數の多いことを聞いて居つたが、事實さういふ状態で、殆ど自動車でなければ歩くことが出来ないやうな状態である。彼の地に居る日本人などは、自動車は日本の下駄であると云ふて居る。吾々が下駄を履いて歩くのと同じく、亞米利加に於て自動車に乗るとい

ふことは必然の要求であつて、これを用ひないものはないのである。實際を見ると洵にその通りである。自分が桑港に着いて市内をドライブしたときに自動車の番號に九〇、といふのを見たので、これは九萬臺か随分多いものだネと言つたところが、同乗の友人がイヤそれは九〇萬臺である君は一桁取違へて居るのだと言つて笑はれたことがある。而して米國では自動車は極めて安く買へる、又その維持修繕費も安い、ガソリンも安い、そうして運轉は殆ど皆な自分でやつて居るのであるから、運轉手の給料は要らない。随つて自動車を有つといふことは贅澤でもなければ又高價なものでもない。大使と一諸に自動車を乘廻した時の話に、大使館に居るコックとか下男なども皆自動車を有つて居る。勿論車の良いと悪いとはあるけれども、皆自分で有つて自分で運轉して居るのだから、吾々が自動車に乗ることを見て以て彼等は贅澤なりとは少しも思はないのであるといふことであつた。百五十圓ぐらゐの月給を取る人は必ず自動車を有つて居るさうである、さういふ次第で、自動車は今日陸上に於ける交通機關の有要なる地位を占めて居るのである。

自動車の發達がさういふ状態であれば、これを載せて走らすところの道路といふものがそれに伴つて行かなければならぬことは言ふまでもない。であるから從來とても外國の道路と日本の道路とを比較すれば殆ど比較にならぬ程であつたが、近時は殊に外國では道路に力を入れてこれを良く造り良く維持して行くやうになつて居る。それでなければ交通機關の最も有要な働きをなす自動車を動かす譯に行かないのである。即ち道路は自動車が陸上交通機關の重要なる部分を占めると同時に一大變革を來した譯である。

であるから市内は勿論市外に行つても實に氣持の良い道路があつて所謂坦々たる道路といふ形容詞は今日の歐米の道路に實に能く當嵌つて居ると思ふ。その坦々たる道路に數百臺の自動車が続いて走つて居る。私は大都市の郊外を大分歩いたが、數百臺の自動車が續いて居るので、塵埃になつて仕方があるまいと思つたところが、殆ど塵埃は無い、六七十哩走つて來ても洋服が白くなるなどといふことはない。路面はスツカリ舗裝してあるし維持が良く出來て居るので、塵埃は少しも立たない。又自動車の維持修繕費も非常に少なくて済む、最も全國到る處何處も皆舗裝してあるかと言へば、必しもさうではない。小さい田舎道に入れば舗裝してない所もあるけれども、少くとも樞要な道路には必ず舗裝道路がある。又田舎の道路で全幅舗裝してない所も、少くとも自動車の通る中央部分には必ず舗裝してあるのである。さうして舗裝のない道路のことを彼等は「死道」であると言つて居る。彼等は「死道」だから塵埃が立つのだなどと言つて居るので、所謂「活きた道」といふものは舗裝道路を言ふのである。これを見て吾々は實に羨しく感じた。これは亞米利加のみならず英吉利、佛蘭西、獨逸皆さういふ状態である。

斯の如く道路の舗裝をし維持修繕を十分にするといふことは、相當の費用の要することは勿論である。隨て住民の負擔も増し總てに金が餘計掛るであらうけれども、併しながら道路を改良した結果は、それに依て交通の能率を増し、物資の運輸を速かならしむる結果、物價が安くなつて來る。今までは馬車或は荷車或は人の背に依て多大の時間を費したものが、極く僅かの時間で運搬され、又運輸力も殖えるから隨て物資の値段が安くなるのは當然である。故に彼等は、これだけの負擔をして道路

に費用を投ずることは吾々の生活費を安くする所以である。國の富を増す所以である。地方の開発を促す所似であると考へて、道路に就ては彼等は國民必需の機關としてこれに費用を擲つことを惜まぬ。隨て道路は益々良くなり、その結果は地方が開發し、物資が搬出され、生活が安易になるといふことを諒解し、道路の改良は、彼等が殆ど異口同音に唱へて居る所である。

次に歐羅巴に於ては五年に亘る久しき大戰爭をなしたのであるから各國とも非常な創痍を受けて居る。殊に佛蘭西、白耳義、獨逸、奧大利の如き交戰國は、財政の上に經濟の上に或は産業の上に、多大の創痍を受けて非常な苦痛を嘗めて居る。であるから吾々はこれ等の國に於ては道路とか港灣などに手を出す餘裕が無いやうになつて居るであらうと想像して居つた。殊に獨逸の如きは、この點に就ては私は最も悲觀して居つた。數年前に獨逸に行つた人の話を能く聞いて居るのに、獨逸は戰後非常な悲慘な狀態に陥つて、賠償金は拂はなければならぬ、國民の負擔は益々増加し、市街は穢なくなり、凡ての設備は悪くなり、道路の狀態などは最も良くない、又國民は享樂氣分に耽り、自暴自棄に陥り、獨逸は最早や回復の見込が無いといふやうな話も聞いて居つた。ところが今度行つて見て實は甚だ意外に思つたのは、さういふ狀態は少しも見えない。國民は元氣満ちて居るやうに見える。殊に道路の狀態がどうであらうかと注目して見るに、どん／＼新しき道路を造つて居る。戰前に行つた時にも伯林の郊外が発展して、どん／＼新市街が出来、都市計畫等も出来て居たのを見たのであるが、今回はどうなつて居るかと思つて、その郊外を一巡して見ると、新しい道路がどん／＼開けて居るさうして従前より以上に進んで居る。伯林の郊外にビスマルク道路と稱する道がある、これはこ

の前に見た時にはそれ程の道ではなかつたが、非常な廣い道になり今日尙ほ擴張してどん／＼拵へて居る、勾配を低くし、その上に舗装をして立派な道路を造つて居る。又伯林の市内では街路を盛んに修繕して居る、吾々の眼から見れば左程悪くなつて居ないと思ふにも拘らず非常な金を掛けて修繕をして居る、これは戦時中殆んど手を付けなかつたからといふので、今修繕をして居るのだといふことであるが、國力疲弊の中にも、道路に就ては最も重きを置いて居るといふことを看取することが出來たのである。

私は極く短日月の間に各方面の視察をしたのであるが、非常に早く方々を見ることが出來た。以前には馬車或は汽車を利用して行つた所も、今日は自動車で大抵の所には樂に行くことが出來る。であるから前には少くも二三日を要した所も、今日では一日で見ることが出來る、随つて旅程の時期の僅かなる割合に多くの國に行き多くの場所を視察することが出來た。是れは全く交通機關の完備した結果である。即ち自動車の發達した結果であり、道路が良くなつた結果であるといふことを痛切に感じたのである。それで彼の地で外國の知人に逢ふと、誰れも、日本は非常に文化が進んだといふことを聞く、今では五大強國の一とまで言はれるやうになつた、ところが日本へ行つて見ると道路の悪いのには一驚を喫する。道路は何とかする譯には行くまいかといふことを、日本に來たことのある外國人から屢々言はれた。又彼の地に居る日本人も吾々に向つて、何とか道路だけは良くして貰ふ譯に行かないか、日本に歸つて見ると如何にも道路の悪いことを痛感する、外國人に對して吾々は非常に肩身が狭いやうに感ずる、道路だけは何とかして貰へないかといふことを到る處で聞かさ

れるのである。又實際體裁とか面目とかいふことでなく、産業方面から言つても、亞米利加の如きは  
大農組織で農業をやつて居るからその收穫期には農産物を自動車で運搬して實に盛んなる狀況で  
ある。あの大きな農業地から出る産物を運搬するのに非常に都合好く行つて居るやうである。さ  
ういふ點から考へれば吾々の生活の上から言つても道路の改良は最も必要であると思ふ。

尙ほ歸途は印度洋を通つたのであるが、英國の植民地などは道路は相當立派なものが出来て居る。  
コロンボの附近のキャンデーといふ所は釋迦の遺骨のある名蹟地であるが、コロンボよりキャンデ  
ーに行く道路は實に立派に出来て居る。この地はもと和蘭領であつたが、その頃は殆んど道路に手  
を着けなかつた。その後英吉利領になつた時に、土人は英吉利の治下に立つことを快しとせず大分反  
抗があつた。ところが英吉利人は第一にキャンデーに通ずるに立派な道路を造つた。その結果は交通  
の上のみならず、産業の上にも非常な便宜を得たものであるから、斯ういふ政治をして呉れるならば  
吾々は英吉利の治下にあつて幸福を得られるであらうといふて、土人が英國の統治に推服したとい  
ふことである。即ち道路の開發を以て植民地統治の第一着手としたといふ事は英吉利人の着眼點  
の偉い所であるといふことを誇つて居る者があつた。

只自分が今度一つ大いに意を安んずることを得たのは伊太利の一部の道路に就てであつた。伊  
太利のナポリからボンペイに行く間、これは自動車で僅か一時間ぐらゐで行ける所であるが、この道  
路は日本にも劣らぬ悪い道である。石は敷いてあるけれども凹凸があり、實にガタ／＼して不愉快  
である。先年内務省の野村技師が自動車が顛覆して死んだのは確かこの道であると聞いて居るが

實に悪い道である。日本の道路が悪いと言ふけれども、歐羅巴にも斯ういふ道路もあるからと云へばこれで安心したと言つて同行者と笑話をしたことがある。併しながら頃日伊太利では一體伊太利は道路は良くない所であるが、ムツソリニーが政治の局に立つてから非常に道路に力を入れて、今や樞要な所に自動車道路を開發する計畫を立て、着々やつて居るさうである。他の方面には大に財政整理をしたが、道路に就ては特に力を入れて居るといふことを聞いた。

此くの如く歐米諸國に於ては道路に就て如何に力を入れて居るかといふことは想像し得られるのである。然らば日本が歐米のやうに道路を良くして行けるかといふと、これは容易ではないけれどもお互はさういふ域に達するやうに努力せねばならぬ。これには財政の關係があり、國費地方費の關係もあり、總ての費用を道路にのみ懸けることは出来ないが何とかして道路を良くしたいといふことは、特にその感じを深くした次第である。

この財政の點に就て吾々は考へなければならぬ。道路を良くしたいといふことは誰も望む所であるが、如何にしてその財源を得るかといふことが問題である。我國の道路の良いか悪いかといふことは最早論する必要はない、誰も知つて居る、只その費用を如何にして得るかといふことが問題である。本會幹事丹羽七郎君に此の費用の問題を調べて貰ひたいといふことを頼んで置いたから、近々同君が歸朝せられたならば、この點に就ての調査を齎らされるであらうと思ふ。自分の知つて居る所では、英吉利などには道路基金といふものが各地方々々にある、その基金を以て道路を改良する、道路改良の結果沿道の地價が騰貴し家屋が建ち、土地が繁昌する。それに特別賦課をする、特別賦課



を受けても土地所有者には多大の負擔にはならない。さうしてその金は基金の中に入つて來る、又道路に依ては國からも補助があつて是れが又道路基金に入ると云ふ制度もある。これ等も一つの方法であらうと思ふ、我が道路改良會に於てはそれ等の點に就て、調査部を設けて調査をして居るのである。

又道路の構造に就ても考究を要する。或は技術の方面或は經濟の方面、或は國竝に地方の財政の方面等各方面の調査を遂げ、又道路改良の結果が國竝に地方の産業に如何なる影響を來し、どれだけの利益を與へるかといふ點を考へて、それ等の調査もすることになつて居る。これ等に依つて國民が道路改良の必要を認め、道路の完全なることがお互の生活を幸福ならしめ、國家の富源を造成するものであるといふ考を有つに至つたならば、道路に對する費用の負擔も惜まないことになり、又これに依て國家竝に地方の財政を按排し得ることにならうと思ふ。

以上は既に萬人熟知の事で、今私が事新しく土産話として申すまでのことではないが、道路に關する各國の狀勢は斯の如き次第であるから、吾々も漸次この域に近づくやうに努力したいと思ふ。今回の講習會に聽講せられた諸君は、御歸縣の上それ〴〵その職務に御盡瘁になつて、所謂斯の道の爲めに御盡力あらんことを切望する次第である。(完)